

救うことを、つづける

130周年

あなたの
優しい気持ちを
届けます

人間を救うのは人間だ。

2019 春号

赤十字 やまぐち

Yamaguchi Japanese Red Cross Society



赤十字社への寄付は 会員になる 1回限りのご寄付 など

いつでも・簡単に・身近な場所 でご協力いただけます。

詳しくは
中面をご覧下さい



平成31年度 日本赤十字社山口県支部 予算 (単位 千円)

皆様からの支援資金をもとに、
人間のいのちと健康、
尊厳を守る活動を続けています。

Ⓐ 活動資金収入	192,000
Ⓑ 本社交付金収入	1,386
Ⓒ 繰入金収入	91,000
Ⓓ 雑収入	8,544
Ⓔ 前年度繰越金	14,000

Ⓕ 災害救護	31,599
Ⓖ いのちと健康を守る講習普及	15,540
Ⓗ 赤十字ボランティアの育成・活動促進	9,811
Ⓘ 未来につなぐ青少年赤十字活動	13,610
Ⓛ 國際活動、赤十字の全国的事業	29,380
Ⓜ 市町の赤十字事業	36,400
Ⓛ 赤十字思想の普及等	39,668
Ⓜ 支部の運営費	38,422
Ⓝ 施設整備	90,000
Ⓞ 予備費	2,500



※赤十字病院、血液センターは施設ごとの特別会計となっており、この予算には含まれていません。

赤十字やまぐち活動レポート

これらの活動すべては、皆様からの支援資金に支えられています。
ありがとうございます。詳しくは <http://www.yamaguchi.jrc.or.jp>



日本赤十字社は、
世界191の国と地域にある
赤十字社の一つです。
日本赤十字社法という法律に
基づく認可法人であり、
独立した民間の団体です。

件数は4月1日～12月31日現在

災害救護

1. 救護訓練

赤十字の使命である災害救護活動を迅速かつ的確に実施するため、計画的な救護訓練や研修会を通じて、救護知識の習得と技術の向上を図っています。

10月 救護員としての
赤十字看護師研修総合演習
こころのケア研修など



2. 防災・減災講習

地域の防災力と県民の減災意識向上のため、自治会・学校・赤十字奉仕団等、広く県民を対象とした講習会を実施しています。

赤十字単独で行う講習 75回

気象の専門家と共同で行う講習 19回

この他にも防災ボランティア育成のための講習を実施し、11人が受講しました。



大雨災害から10年

防府市教育委員会との
防災教育モデル事業

日赤県支部は、気象の専門家である下関地方気象台・日本気象予報士会西部支部との3者で「いのちを守る防災教育を推進する会」を結成し、一人でも多くの児童・生徒が災害時にいのちを守る行動がとれるように、平成26年度から県内の学校に出向き「大雨防災ワークショップ」を実施しています。平成27年度には、このワークショップをマニュアル化し、県内の全小・中・高校に無償で配布。各校での活用を呼びかけています。平成28年度からは、過去に大雨災害に見舞われた防府市をモデル地域とし、市教育委員会と共同で教員対象の研修会を実施。平成30年度には、市内全小・中学校の担当教員が、それぞれの学校でこのマニュアルを活用したワークショップを行いました。



10月 幼稚園・保育所向け 新防災教材
「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん!」が完成!

長門市立三隅保育園にて、年中・年長園児50名を対象に、長門市三隅赤十字奉仕団協力のもと、園児向け新教材を活用した防災・減災講習を行いました。

教材は、無料でダウンロードし自由に使用できます。

URL:<http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/>

3. 義援金受付状況



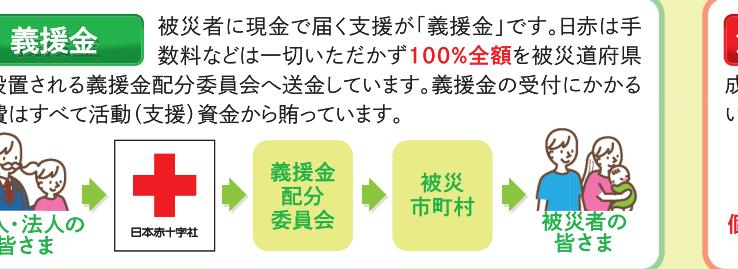
受付終了
山口県平成30年7月
豪雨災害義援金
446,876,770円
(平成30年12月31日現在)

受付中
平成30年7月豪雨災害義援金
(被災府県全域を対象)
67,145,293円
(平成30年12月31日現在)

受付中
中東人道危機救援金
・バングラデシュ南部避難民救援金

その他の国内義援金・海外救援金も受け付けています。
最新の情報は、支部ホームページをご確認ください。

義援金と活動(支援)資金の違い



いのちと健康を守る講習普及

日常生活における安全意識を高め、事故や災害時に相互に助け合い、行動できる人を増やすことを目的に、具体的な知識と技術を一般の人々に広めています。

1. 赤十字主催の講習

年間スケジュールに沿って、県内各地で開催しました。
※10月に周南市で予定していた講習会は台風接近に伴い、受講者の安全を考慮し中止しました。

2. 講 師 派 遣

学校や自治会からの要請に応じ、講師を派遣しています。



急救法基礎講習会・
急救法支援員養成講習会 講師派遣は282回

健康生活支援講習 講師派遣は17回

幼児安全法講習 講師派遣は30回

ボランティアの育成

赤十字社では、地域やボランティアの分野ごとに「奉仕団」を組織し、人道的な諸活動を実践するための連絡調整会議や研修等を行っています。

10月 赤十字奉仕団
中堅団員研修会

12月 青年(学生)赤十字奉仕団
リーダー研修会 など

〈赤十字奉仕団の種別と役割〉

奉仕団名	役割
地域奉仕団	地域のボランティア活動や 災害時の炊き出しなど
青年(学生)奉仕団	献血推進や社会福祉施設の訪問
安全奉仕団	県内全域での 救急法等講習会指導・受講促進
アマチュア無線奉仕団	通信訓練及び県・市町防災訓練への参加
青少年赤十字賛助奉仕団	JRC未加盟校への加盟促進
災害救護奉仕団	県内全域での 防災講習会指導・防災減災意識の向上

西日本豪雨災害

周防大島町赤十字奉仕団(中元みどり委員長)は、災害ボランティアのために何か役立つこと、炊き出しのボランティアを自発的に行ないました。日ごろの訓練・研修が活かされ、また支給していた資材も役立てられました。



周防大島町大規模断水

災害救護奉仕団(藤本浩志委員長)は、周防大島町で給水ボランティアを自発的に行いました。高齢の住民に負担となつた、水の入った重い容器を車に積み込む作業を手伝いました。



5月は、赤十字運動月間です!

お知らせ

赤十字思想の普及

今からおよそ150年前、スイス人のアンリー・デュナン(ノーベル平和賞 第1回目の受賞者)は国際的な救護団体の必要性について訴え赤十字社を創設。「人道」「公平」「中立」など赤十字の基本7原則は世界各国に広がりました。日本赤十字社は毎年5月を運動月間とし、創設者の想いを広め、赤十字事業へのご理解ご協力を呼びかけています。

県内・全国各地の
赤十字奉仕団や
青少年赤十字加盟園・校の
児童生徒らが、それぞれの
地域で活躍します!



H23年度をピークに

大幅(約1億円)減少!
(個人寄付額の推移)

平成23年	273,787千円
平成29年	180,585千円
減少率	34%減



西南戦争と日本赤十字社

「負傷兵を助けたい。」寄付金のみで設立された救護団体

1867年(慶応3年)にパリ万博へ派遣された佐野常民は、欧州各国の敵味方の区別なく救護活動を行う赤十字の存在を知り、赤十字の思想こそが「眞の文明開化」だと確信しました。明治10年、西南戦争が勃発し、多くの戦死者・負傷者が出ていた激戦の最中、佐野は新政府軍の征討総督である有栖川義仁親王に、救護団体「博愛社」設立の請願書を提出します。有栖川義仁親王は英断をもって許可され、「戦場の負傷者を救護することで戦争には一切関与しない」「(中立でいるため)政府からの援助金は受けず」活動の資本は有志の寄付金に依る」とし、佐野は博愛社の救護活動を直ちに開始しました。



ジュネーブ条約締結を機に「日本赤十字社」へ改称

西南戦争後は博愛社の存在意義が問われましたが、「平和の時こそ備えるべき」と、明治19年11月15日、日本政府がジュネーブ条約に参加したことを受け、翌年5月20日、博愛社は「日本赤十字社」と改称し現在に至ります。(ジュネーブ条約締結国にのみ赤十字社の創設が認められる)。

赤十字の活動資金にご協力をお願いします

赤十字社への会費・寄付金の納入は、税制優遇が受けられます。

ご協力方法について

①会員になる

年会費2,000円以上(個人)、10,000円以上(法人)の納入があり、ご希望があれば会員として登録させていただきます。

②今回のみ寄付をする

会員としてではなく、任意の金額のご寄付も隨時受け付けております。

③遺贈、相続財産、香典での協力

詳しくは、ホームページでご確認いただくか、支部にパンフレットをご請求ください。

会費または寄付金の納入方法

金融機関からのお振込み(手数料無料)や、インターネットによるクレジットカード決済・コンビニ決済・銀行決済などができます。赤十字施設や各市町の赤十字窓口では、現金によるご寄付も受け付けています。

お振込み用紙をお送りすることもできますので、詳しくはお問合せください。

お寄せいただいたご寄付をもとに



医療救護、救援物資の備蓄、救護訓練などの災害救護活動のほか、いのちと健康を守る知識・技術の普及、赤十字ボランティアや青少年赤十字の育成・活動促進などの事業にも活用させていただきます。

災害救護活動

表彰制度について

赤十字活動資金へのご協力には、次のとおり表彰制度を設けております。山口県支部では表彰者を対象に伝達式典を開催しています。

日本赤十字社 国	支部長表彰状	一時または会費の累積額で10万円以上お寄せいただいた方へ
日本赤十字社 国	銀色有功章	一時または会費の累積額で20万円以上お寄せいただいた方へ
日本赤十字社 国	金色有功章	一時または会費の累積額で50万円以上お寄せいただいた方へ
日本赤十字社 国	社長感謝状	金色有功章後、一時または会費の累積額で50万円以上お寄せいただいた方へ
日本赤十字社 国	厚生労働大臣 感謝状	同一年度内で、個人：100万円以上、法人：300万円以上の寄付をいただいた方
日本赤十字社 国	紹綏褒章	個人：一時に500万円以上、法人：一時に1,000万円以上の寄付をいただいた方



企業・団体の社会貢献活動(CSR)として

山口県支部では、ご寄付の金額に合わせて、社会貢献をPRするための媒体を提供します。日本赤十字社への寄付に対しては、税制上の優遇措置があります。

1万円以上 2万円以上 5万円以上 10万円以上



ステッカー

プレート

ホームページに掲載

広報誌に掲載

赤十字サポーター募集

～社会貢献のためのパートナーシップを赤十字と～

ご寄付に加え、日赤の事業・活動に参加・協力していただける企業・団体様を「赤十字サポーター」として募集・登録し、認定証を交付し、ホームページで公表します。

協力例
広報誌やチラシを利用して広告掲載等
周年事業にあわせた寄付
寄付つき自動販売機の設置



赤十字サポーター認定企業・団体等

・株式会社西京銀行 様
・株式会社三宅商事 様
・下関商業開発株式会社 様
・澤田建設株式会社 様
・株式会社エイム 様
・宇部流通サービス株式会社 様
・株式会社丸久 様
・生活協同組合コープやまぐち 様
・一般社団法人生命保険協会山口県協会 様
・株式会社コムズコーポレーション 様
・株式会社鶴川グランドホテル ホテル西長門リゾート 様
・香典返し(逝去者ご芳名)
・田中 善人 様(山口市)
(ご尊父 田中了 様)
ほか6名・社 様

受講者募集

いのちと健康を守る赤十字の講習

～家族のために、地域のために、自分のために～

座学と実技で知識と技術の習得を目指します。講習後は検定を行い、合格された方に対し各種修了証を交付します。



救急法講習／日程



①4時間コース(基礎講習)

手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方、AED(自動体外式除細動器)を用いた除細動など

②3日間コース(救急員養成講習)

日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得など

平成31年

長門市
9月頃予定

宇部市 宇部市総合福祉会館
11月9日(土)・10日(日)・16日(土)

山口市 サンフレッシュ山口
11月30日(土)・12月1日(日)・7日(土)

平成32年

周南市 学び・交流プラザ
1月18日(土)・19日(日)・25日(土)

健康生活支援講習／日程



幼児安全法講習／日程



平成31年

山陽小野田市 小野田赤十字病院
7月13日(土)～15日(月・祝)

平成32年

山口市 日赤県支部
2月22日(土)～24日(月・休)

自身の健康維持のために～病気や事故の予防など

家族や地域の高齢者支援として～移動の介助・車いすの使い方、食事の介助(調理の工夫・食事をするときの留意点・口腔内の清潔など)・衣服の着脱介助など。その他にも、災害が高齢者に及ぼす影響、認知症高齢者への対応など

平成31年

山陽小野田市 小野田赤十字病院
10月5日(土)・6日(日)

山口市 場所未定
12月14日(土)・15日(日)

水上安全法講習／日程



泳ぎの基本と自己保全・事故防止、水の事故から人命を守るため、溺れた人の救助・応急手当の方法など。

※受講には一定の泳力が必要です。

平成31年

救助員I
(プール)
6月20日(木)～22日(土)

あなたのまちの赤十字

お住まいの市町役場、または社会福祉協議会に日赤の窓口があります。
詳しくは、お電話でお問い合わせいただくかまたは支部ホームページにてご確認ください。

活動(支援)資金の 受付



国内義援金、 海外救援金の受付

日赤講習会に 関すること



地域の防災に 関すること、災害時の 救援物資に関するこ



講習・サポーター登録など
各種お問い合わせは

日本赤十字社山口県支部
TEL 083-922-0102

携帯・スマートフォンからはこちらから
<http://www.yamaguchi.jrc.or.jp>

